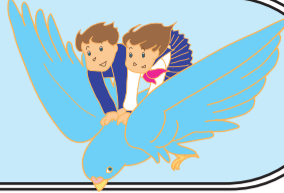


# 君とつばさ



## 交通遺児育英会機関紙

◎平成23年10月1日発行  
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会  
 〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1  
 0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1  
 (HP) http://www.kotsuiji.com

### 本会への 個人寄付金

## 「税額控除」も適用

### 「所得控除」より減税効果大

交通遺児育英会は、本年4月1日に公益財団法人へ移行した。これに伴い、同日以降の本会への個人の寄付金は、従来の「所得控除」に加え、「税額控除」が適用されることになり、寄付者はどちらかを選ぶことができるようになった。

「税額控除」制度では、寄付金額から2000円を差引いた金額に40%を掛け、平成23年度の税制改正で導入された。この「税額控除」の適用を受ける場合、確定申告書に、本会の領収書とともに、内閣府が本会を税額控除対象法人であると証する書類（税額控除に係る証明書）の写しを添付する必要がある。本会は7月15日に税額控除対象法人であると証する書類を受領しているため、4月1日以降の寄付者に対しては、さかのぼって証明書を交付している。

なお、公益財団法人への移行前の、すなわち3月

31日以前の個人の寄付金については、従来通り、「所得控除」のみの適用となる。

### 「所得控除」と「税額控除」の減税効果の事例

事例	所得控除	税額控除	減税額	差額
〈例1〉年間寄付額5万円、課税所得300万円	(50,000-2,000)×累進税率10%	(50,000-2,000)×40%	4,800	19,200
〈例2〉年間寄付額5万円、課税所得500万円	(50,000-2,000)×累進税率20%	(50,000-2,000)×40%	9,600	19,200

## 親睦深め デイズニー満喫

### 中国・四国・九州から40家族105人

### つどい



開会式で挨拶する中根理事長

平成23年度の「高校奨学生と保護者のつどい」が、8月19、20、21日の3日間、千葉市のアパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉と東京ディズニーランドで開催された。今年度は、中国・四国・九州地区17県から40家族105人が参加した。同じ境遇にある奨学生、保護者同士が、胸に秘めた不安や悩みを語り合い、親睦を深めた。

今年の「つどい」は悪天候のため波乱の幕開けとなった。初日は、最初に中根理事長が挨拶した。

理事長が挨拶。その後、永瀬希実さんが心塾東京学生寮を紹介し、講演へと続く。トップの佐藤良さんは、自分のために頑張ってくれている人々への感謝の気持ちを語り、日野市の心塾東京寮を見学した。

なお、来年の「つどい」は、8月4日から2泊3日の予定で開かれる。

満喫したようだった。最終日は、石橋健一専務理事が、初日の懇談会を総括し閉会の挨拶を述べ、「つどい」は幕を閉じた。終了後、希望者は、日野市の心塾東京寮を見学した。

最後に、千葉県浦安市在住の星野智恵子さんが、「一人で生きていけない以上、同じ境遇の人たちとのネットワークの大切さ」を訴えた。

休養後、中根理事長、馬場秀樹理事を始め、職員、心塾生も参加して懇談会に移った。

高校生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業などを、保護者グループでは、現在の生活、直面する問題や悩みなどを課題に熱心な話し合いが行われ、初日の行事は終了した。

2日目は、終日東京ディズニーランド。いずれの家族も早朝から夜遅くまでアトラクションやパレードを

## 暴動の影響なく 無事帰国

### 32人、イギリス、カナダで語学研修



今年で8回目を迎えた英語圏内での海外語学研修は、参加者32人が貴重な体験を土産に無事帰国した。

(4、5面に特集記事)

今年度は、夏休み明けの7月下旬から8月中旬の3〜4週間をホームステイしながら英語学校に通い、

ギリスへ30人、エイ・エフ・エス(AFS)日本協会の協力によりカナダに2人を派遣した。

派遣期間中には、イギリス各地で暴動が発生し、研修生の親から心配する電話が来た。

世界から集まった同年代の若者との交流を通じて、国際的視野と感覚を身に付け、将来、国際人として活躍できる青年を育成しようという目的を

今年度は、イギリスへ30人、エイ・エフ・エス(AFS)日本協会の協力によりカナダに2人を派遣した。

派遣期間中には、イギリス各地で暴動が発生し、研修生の親から心配する電話が来た。

があつたが、派遣先のソウルズベリーは平穏で、研修生は授業やアクティビティを心から楽しんだ。帰国にあたって、「わずか3週間でしたが、一生の思い出になる素敵な体験ができました」実際に海外で生活してみても、自分の英語力のなさにショックを受け、もっと頑張らなければと思うようになった。

多くの外国人と話せたり、文化の違いも分かり、とても楽しかったです。など口々に語り、短期間ながらも、じかに交流した若者たちの国々の歴史や文化を見聞きし、大いに学ぶことができた。

今年の夏は、かねんなでしが、ラングフルトの地で大きな花を咲かせたことに日本中が

### 「花と蝸」



油彩・カンバス

愛知県立芸術大学 3年

白井 弓子

### 今年度の相談会スタート

平成23年度の「高校奨学生と保護者の相談会」が始まった。最初は7月9、10日に静岡県で、次いで9月10、11日に宮城県で実施した。

主な相談は、海外語学研修と心塾のこと。特に高奨生が同席していると、親子そろって語学研修への質問が多く、ぜひ応募したいが作文は何をどのように書けばよいかと、質問が集まる。上級生になると、目の前の受験に関心が強く、開催地の関係で東京の心塾に対する質問が多かった。

### 宮城県



前の受験に関心が強く、開催地の関係で東京の心塾に対する質問が多かった。

▼バンクラディッシュの人々が、水害のときいつも最初に支援してくれるのは日本だから、といって寄付を募っている。ましてや、同じ時にこの国に生きる者として、復興のために相応の負担をすべきと考える人が大多数ではないかと考えてしまう▼本会の夏は、例年通り、高校奨学生を対象とする海外語学研修とつどいを開催し、無事終了した。

高校奨学生には視野を広く持ち、たゆまぬ努力を続け、厳しい景気や雇用情勢の現実にも強く踏み出していく勇氣を培うよう、いつもこの夏の行事に託している。

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として

助成を受け作成されたものです。

